

---

## ● 見通し

- ✓内外経済
  - ✓国内資産・海外資産・為替
-

# 内外経済

## 国内景気

＜企業部門＞世界経済の回復に伴う堅調な輸出を背景に、生産は回復基調が続き、製造業を中心に企業マインドは改善が続くと予想します。一方、設備投資については、依然として稼働率は低いものの、生産の回復や資本財出荷の堅調な推移を反映して緩やかながら回復基調をたどると予想します。

＜家計部門＞エコポイント等の景気対策効果は鈍化が見込まれるものの、政策効果(子育て支援策、公立高校授業料無償化)による下支えのほか、所得環境に下げ止まりが見られ、個人消費は比較的堅調に推移するものと予想します。

## 金融・財政政策

日銀は、足元で景気やデフレに対する認識を上方修正しているものの、デフレの状況を勘案し、当面政策金利を据え置くと予想します。欧州の財政問題を発端とした金融市場の混乱により、円高が急速に進行する局面では、政府と協調して追加策を打ち出すことも想定します。

## 米国景気

＜企業部門＞設備投資は、稼働率が緩慢な回復にとどまっていることや銀行の貸出スタンスが慎重であることが下押し要因となるものの、外需の伸びを背景に生産が回復し、また企業業績も増益基調が続くと見込まれることから、緩やかな回復基調を予想します。

＜家計部門＞依然として高水準の失業率や債務調整圧力が下押し要因として残るものの、雇用・所得環境は徐々に持ち直しが見込まれることや資産効果などが消費マインドを下支えし、個人消費は比較的堅調な推移を予想します。

## 金融・財政政策

インフレ率が低位で安定していること、また、雇用環境の悪化には歯止めがかかっているものの、失業率は依然として高く、設備稼働率も低水準であることから、FRBは、政策金利を据え置くと予想します。欧州の財政リスクに端を発した金融市場の混乱により、米国の利上げ時期が後ろ倒しになる可能性にも留意します。

Note

# 国内資産・海外資産・為替

## 国内債券

リスク資産が調整する中で金利が低下する局面も想定しますが、景気は回復過程にあることから低下幅は限定的と予想します。市場が落ち着きを取り戻すにつれ、景気動向を反映し金利は緩やかに上昇すると予想します。

【2011年4月末予想値 新発10年国債 1.4-1.7%】

## 国内株式

2010/3期の企業業績は、増収効果及び前年度に行ったコスト削減効果により、前期比2ケタの営業増益となっています。足元の株価調整を受け、バリュエーションも低下していることから、センチメントが回復するにつれファンダメンタルズを反映した動きになるものと予想します。

【2011年4月末予想値 TOPIX 1,000-1,200】

## 米国債券

5月に入り、質への逃避や、欧州市場の混乱から利上げ時期の後倒し観測により金利は低下していますが、米国景気は堅調に推移しており、投資家のセンチメント回復につれ、再度金利上昇圧力がかかる局面を予想します。

【2011年4月末予想値 米10年国債 4.0-4.4%】

## 米国株式

欧州の財政問題を発端としたリスク回避的な動きから足元の株価は調整していますが、ファンダメンタルズは堅調に推移しており、センチメント回復につれ再びファンダメンタルズを反映し、株価は回復するものと予想します。

【2011年4月末予想値 米S&P 1,180-1,320】

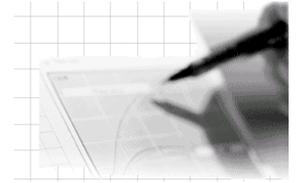
## 為替

<ドル/円> 不安定な金融環境を背景にリスク回避の動きが高まり、リスクの退避先として円が買われる局面を予想します。短期金利の日米逆転は解消されており、米国と日本の景況感格差を反映し、ドル高傾向になると予想します。

<ユーロ/円> 域内の財政問題が根深く、景気刺激策を継続する余地も乏しくなっており、域内景気の先行きに不透明感が残るため、ユーロの上値は重いと予想します。

【2011年4月末予想値 円/ドル 93-103円、円/ユーロ 118-132円】

Note



---

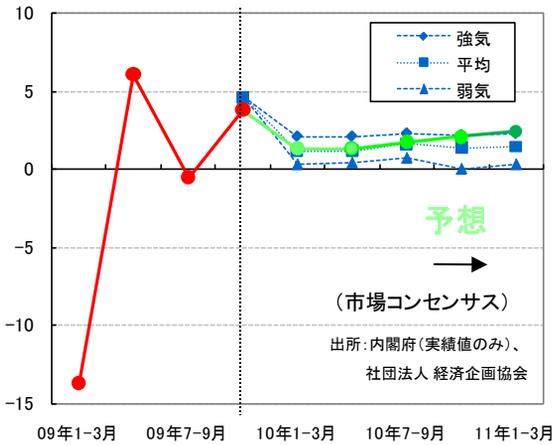
## ● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・中国のGDP成長率
  - ✓ 今月のトピックス
-

# マクロピックス① ～日本・米国・アジアのGDP成長率～

## 日本

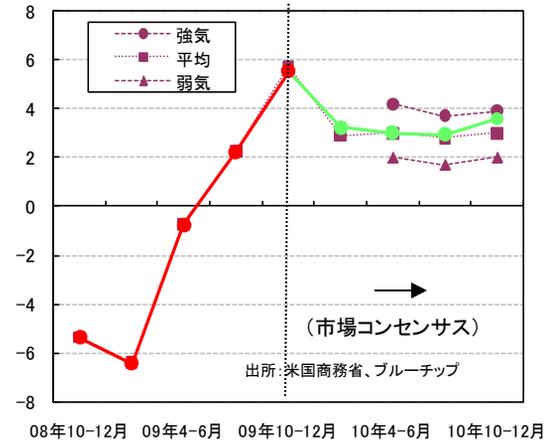
日本:実質GDP成長率(前期比年率%)



1-3月期の実質GDPは前期比+1.2%、前期比年率では+4.9%と4期連続のプラス成長となりました。寄与度では内需、外需ともにプラスとなりました。  
\* 予想は弊社作成

## 米国

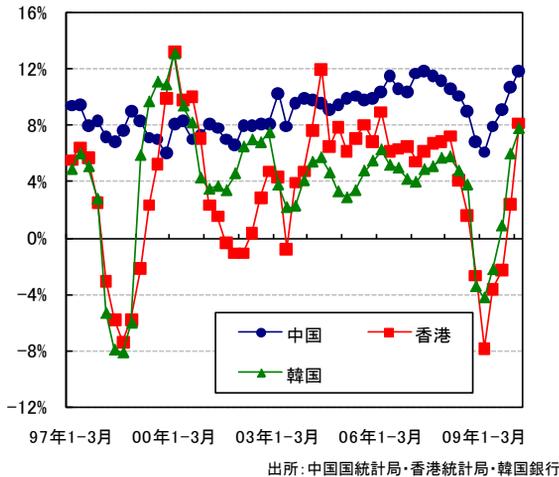
米国:実質GDP成長率(前期比年率%)



1-3月期の米国のGDP改定値は、前期比年率+3.0%と速報値(+3.2%)から下方修正されました。個人消費と設備投資の下方修正が主因です。

## アジア

アジア実質GDP成長率(前年比%)

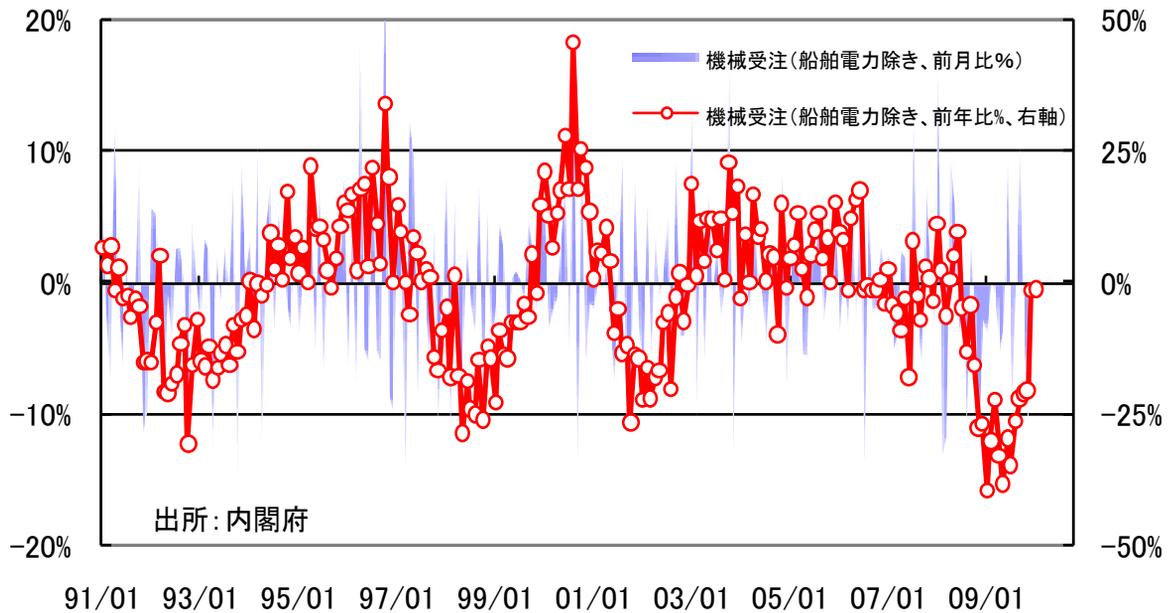


1-3月期の香港のGDP速報値は、前年同期比+8.2%と前期(+2.5%)から伸びが加速しました。輸出と個人消費が成長率を押し上げました。また、香港政府は、2010年の成長率見通しを+4~+5%とし、前回から据え置きました。

## Note

# マクロピックス② ~今月のトピックス~

## ①日本;設備投資の先行指標である機械受注は3ヵ月ぶりに増加



3月の機械受注(船舶電力除く民需)は、前月比+5.4%と3ヵ月ぶりに増加し、前年同月比では+1.2%と21ヵ月ぶりに増加しました。また、1-3月期は前期比+2.9%と2期連続の増加となり、4-6月期は同+1.6%の増加見通しが示されました。

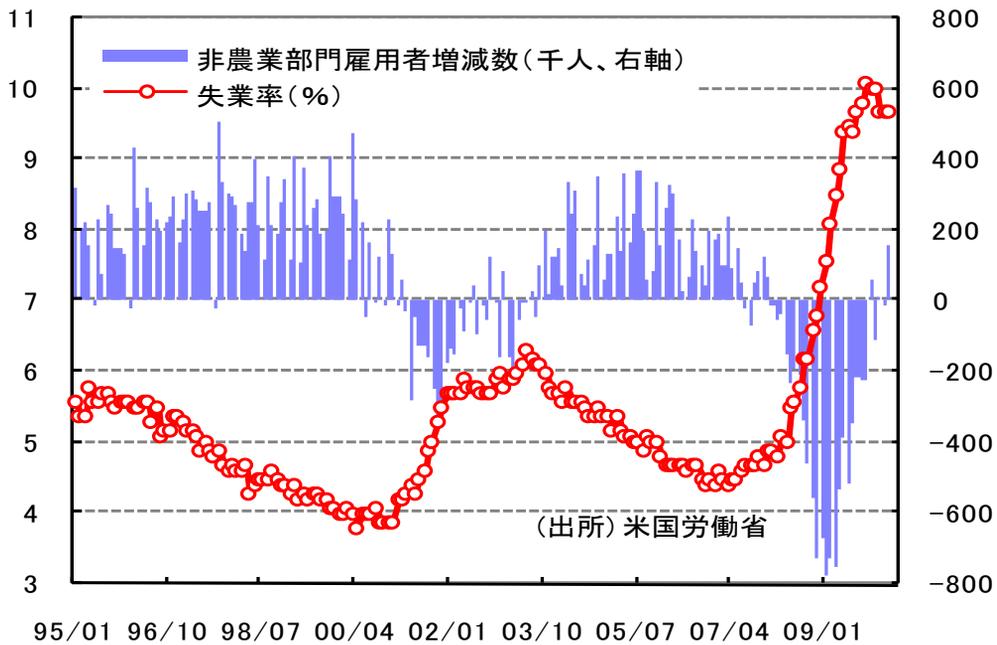
そのうち製造業は前月比+3.1%と4ヵ月連続で増加し、また非製造業も同+12.6%と3ヵ月ぶりに増加に転じたことから、内閣府は基調判断を「下げ止まっている」に上方修正しました。

今後の設備投資動向については、新興国景気の回復から輸出の増加基調が見込まれることや企業収益環境にも持ち直しがみられることから緩やかながらも改善していくものと思われます。

Note

## マクロピックス② ～今月のピックス～

### ②米国;4月雇用の増加ペースが加速する一方、失業率は9.9%に上昇



4月の雇用統計では、非農業部門の雇用者数が前月比+29万人となり、2006年3月以来、4年ぶりの大幅な増加となりました。同時に過去2ヵ月分が上方修正され、4ヵ月連続の増加となりました。ただし、労働参加率が上昇したことから、失業率も9.9%と前月(9.7%)から上昇しました。

4月は連邦政府の国勢調査に伴う臨時雇用が6.6万人となりましたが、5月にも同様の押し上げ効果が期待されます。雇用環境は、景気回復を背景に、持ち直しの動きが続くと思われます。

Note

本資料は、お客様の運用戦略や投資判断等の参考となる情報の提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。

シミュレーションやバックテスト等のデータ、運用実績やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、データの一部は、弊社が信頼できると判断した各種情報源から入手した情報等に基づくものですが、その情報の正確性・確実性について弊社が保証するものではありません。なお、本資料は、作成日において入手可能な情報等に基づいて作成したものであり、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます。

本資料に関わる一切の権利は、他社資料等の引用部分を除き住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。

本資料の内容に関して疑問に思われる点、ご不明な点等がございましたら、弊社営業担当店部等にご照会下さいますようお願い申し上げます。